



具注暦木簡復元図
(表面) 矢印を

矢印を中心折り返してみてください

(四)

→ ←

The diagram illustrates the Eight Trigrams (八卦) arranged in a circle. Each trigram is represented by a square divided into four triangles, with specific symbols in each triangle. The trigrams and their associations are:

- 乾 (Qian): 天 (Heaven), symbol: ☰ (top solid, bottom broken)
- 坤 (Kun): 地 (Earth), symbol: ☱ (top broken, bottom solid)
- 震 (Zhen): 雷 (Thunder), symbol: ☲ (left solid, right broken)
- 巽 (Xun): 风 (Wind), symbol: ☳ (left broken, right solid)
- 坎 (Kan): 水 (Water), symbol: ☴ (top broken, bottom solid)
- 艮 (Gen): 山 (Mountain), symbol: ☵ (top solid, bottom broken)
- 离 (Li): 火 (Fire), symbol: ☶ (top solid, bottom solid)
- 履 (Lu): 土 (Earth), symbol: ☷ (top broken, bottom solid)

Below the trigrams, their names are written vertically: 乾、坤、震、巽、坎、艮、离、履.

発見!! 持続3年の具注暦木簡(飛鳥藤原第122次)

石神遺跡から出土したこの円盤状の木簡は、具注暦と呼ばれたカレンダーの一部です。干支の下には「建、除、満、平、定、執、破、危、成、収、開、閉」の順にめぐる「十二直」が規則正しく並びます。その下には、「九坎」(万事に凶)、「帰忌」(この日の帰宅は凶)、「血忌」(この日の出血は凶)、「天倉」(倉開きに吉)など、その日の吉凶が記されています。「上玄(弦)」(上弦の月)、「望」(満月)といった、月の満ち欠けも書かれています。以上のような情報を読み解くことによって、表面が持続3年(689)3月8日～14日、裏面が同年4月13日～19日の曆

であることがわかりました。日本最古の現存するカレンダーです。「元嘉曆」という、中国から百濟を経由して日本に伝えられた最初の暦です。

周囲が丸く削られているのは、廃棄後に木器として転用されたからです。もともとは、表面に3月、裏面に4月、それぞれ1ヵ月分の暦日を記した長方形の板であったと推定されます（復元図参照）。

具注暦は天皇の名のもと政府が作る正式の暦で、官司や諸国にはその写しが頒布されました。本来は紙に書かれた巻物ですが、同時に多数の役人たちがみられるよう、板材に書き写すという工夫をしたのでしょうか。（飛鳥藤原宮跡発掘調査部 市 大樹）